

DEBUT 首長

熊本県高森町長 草村 大成氏

湧水の良さが海外でも知られる 任期中に年間観光客120万人狙う

熊本県高森町 阿蘇山の南東に位置する南阿蘇地区の中心的自治体として、宮崎県や大分県と境を接する。農林業や観光業が中心で「高森田楽」など郷土料理でも知られる。人口7168人

——選挙で観光立町を掲げた

一番に観光立町を挙げたのは、町役場の職員や町民に意識を変えてほしい、と考えたからだ。去年、^{こうていえき}口蹄疫が流行するまで外国人観光客が増えていたが、調べると高森町の水がきれいだと聞いたからだという。外の人が住民以上に地元の資源を知っていて、地元はそれを生かしてきていない。観光が町民の間で話題になれば、意識も変わると思う。

——具体的な取り組みは

密度の高い観光基本条例を作りたい。例えば群馬県草津町の観光条例は施設ごとの目標がはっきり書いてある。高森町には湧水をはじめとしたすばらしい水や温泉、トロッコ列車の終着駅など多くの観光資源がある。整備事業は何をやるかまで

個別の取り組みを入れ、点を線でつないでいきたい。

現在、年間100万人の観光客は4年後に120万人、7万5千人の宿泊客は10万人に増やすのが目標。そのためには人材育成が必要だ。これまで連携が手薄だったプロジェクト「南阿蘇えほんのくに」の実行委員会や非営利組織（NPO）などにも働きかけて一緒にまちづくりを進めたい。NPOなどの活動はタイムリーで、スピード感など職員の勉強にもなると思う。

——財源はどうする

お金の使い方を変えたい。これまでは道路にお金をかけてきたが、普通に生活するためのインフラはほぼできている。これからの必要な道路はあるが、2年で作るところを3年にすれば、そのお金を他に使える。

——前町長が積極的だった鶏肉処理施設の誘致に反対した

反対したのは観光立町などの政策にそぐわないからだ。環境や景観、水資源に影響を及ぼす。高森町は白川の水源になっている、阿蘇地域だけでなく県全体



くさむら・だいせい 1967年熊本県高森町生まれ。92年日本大学卒業後、海外留学の経験をいかして楽器やCD、DVDなどの輸入販売会社を設立。2011年4月の統一地方選挙で現職を破り当選。44歳。

や下流の熊本市などの住民にも不安を与える。観光立町の環境を壊す可能性がある企業誘致には反対する。

——企業誘致にはどう取り組む

高森町は湧水だけでなく山間部の清流もあり、水がとても良い。企業誘致はこの水資源を生かし、環境にもマッチしたものに力を入れたい。水の加工物は一番先にやらないといけなところ。また大規模な薬草農園も収益性が高く、環境を維持しながら耕作放棄地の解消にもつながる。健康食品の原料などを栽培する東洋新薬と先日、進出契約を結んだが、就任後、すぐに誘致に動いた結果だ。財源は少ないが、適した場所の確保や地元との交渉などで進出を希望する企業には協力したい。企業がモデルをつくってくると私たちもできるという住民の活力も出る。

(聞き手は

熊本支局長 小玉 祥司)